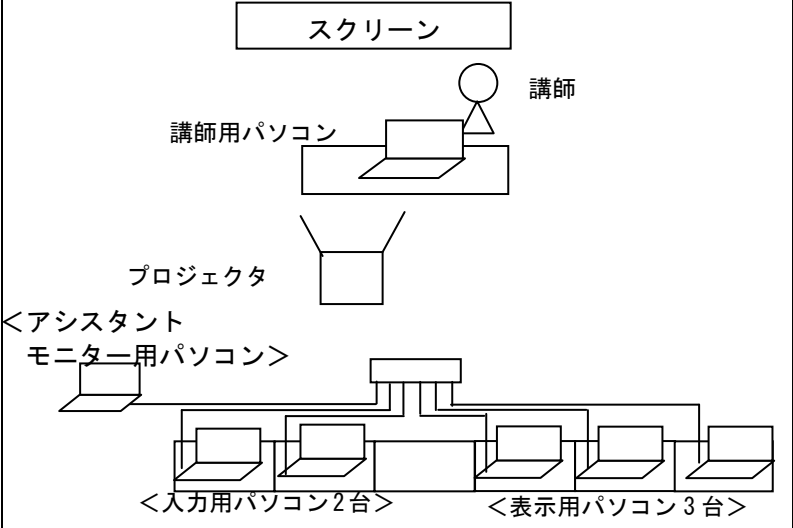


機器を使った「支援技術」

指導計画

	内容	留意事項
<p>教室配置</p>	 <p>The diagram illustrates the classroom setup. At the top is a 'スクリーン' (Screen). Below it is the '講師' (Lecturer) at a '講師用パソコン' (Lecturer's PC). A 'プロジェクタ' (Projector) is positioned between the lecturer and the students. Below the projector is an 'アシスタントモニター用パソコン' (Assistant monitor PC). At the bottom, there are two groups of student PCs: '<入力用パソコン2台>' (2 input PCs) and '<表示用パソコン3台>' (3 display PCs). Lines indicate connections between the lecturer's PC, the assistant's PC, and the student PCs.</p>	<p>受講生が使用する入力用パソコン、表示用パソコン、アシスタント用パソコンはあらかじめHUBで接続し、IPtalkを起動して入力及び表示ができるようにしておく。</p>
<p>情報保障</p>	<p>講師が手話や板書を併用しながら直接受講生とやりとりをする。必要に応じてアシスタントが筆記等で補助を行う。</p>	
<p>進行・展開</p>	<p>○主旨説明 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IPtalkの入力体験と遠隔文字情報保障の利用体験を行う旨を伝える。 ・参加者の中には、パソコンノートテイクを受けた経験を持たない学生もいるため、PEPNet-Japan DVDシリーズの中から同じ授業をノートテイクとパソコンノートテイクの2種類を用いて伝えている映像を提示し、パソコンノートテイクに対するイメージをつかんでもらう。 <p>○IPtalkの入力体験・利用体験 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ設定を終えたパソコンを使って、パソコンノートテイクで用いる連係入力の仕組みについて説明する。受講生は、実際に操作をしながらソフトの仕組みや入力方法を理解する。 ・入力側と利用側に分かれて、各5分程度ずつ体験を行う 入力側：スクリーンに投影される文章を見ながら、 2人ペアで連係入力を体験する 利用側：体験入力で入力された文章を見て、見やすい表示方法や文章入力について考える。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・入力された文字を見て、互いに感想を述べ合う。 <p>○モバイル型遠隔情報保障の概要説明（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔情報保障支援の仕組みと課題を説明する ・パソコンノートテイクによって入力された文字が、離れた場所にあるモバイル端末に表示される様子をデモンストレーションによって体験する。 ・こうした技術を活用できるとしたら、どんな場面で使ってみたいか？を話し合う。 	
<p>指導教材 資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド資料 ・PEPNet-Japan DVD シリーズ Access!聴覚障害学生支援②「小さな『気づき』で変わる授業・変わる大学」 ・連係入力体験用字幕素材 (IPtalk の「入力過程表示」機能を用いて、パソコンノートテイクの文字を1文字ずつ画面に表示し、この様子を画面キャプチャソフトを用いて録画する) 	

この資料は、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)エンパワメント事業の活動成果です。